

こんなことやってるよ



木曽馬文化と草原の再生チーム

～全国から募集したボランティアとともに草地の再生と生きもの調査をしています～

木曽町開田高原は木曽馬で有名ですが、かつてはその餌を採るための草地がいたるところに広がっていました。現在ではその多くが森林となっていました。今も残る半自然草地の一部では隔年での春の火入れと秋の草刈りによる伝統的な管理が続けられています。そこでは秋の七草のキキョウやオミナエシなど、今では珍しくなった花や昆虫が多くみられます。こうした草地を復活させるとともに、干し草を作るために刈草を積み上げた「二ゴ」など、木曽馬や草地にまつわる豊かな伝統的知識や文化を再生し、特色ある地域づくりにつなげていきたいと考えています。

木曽馬文化と草原の再生チームは認定 NPO 法人アースウォッチ・ジャパンの支援を受けながら、環境保全研究所などの研究者や団体などが緩くつながったチームです。2022 年からアースウォッチが募集したボランティアを受け入れ、2024 年までに計 5 回の調査を実施しました。2022 年と 2023 年の調査では、管理を復活させた再生草地で開花植物を調べました。再生前のデータと比較したところ、種類も数も大きく増えていることがわかりました。しかし、この調査は草に埋もれながらの大変な調査で、しかも花の見分けには植物の専門家の指導が必須でした。そこで、2024 年の調査では新たな指標種とすべくコヒョウモンモドキ（種の保存法で保護対象のチョウ）とその食草クガイソウに絞って調査し、比較的容易に判別できることがわかりました。また、秋に訪れた別のグループでは、草を刈って干草を作る作業をしました。体力的にとってもきつかったですが、自分



自分たちで刈った草を美味しくそうに食べてくれる木曽馬

たちで刈った草を馬が喜んで食べる姿を見たことで、単なる草刈りとは違う特別な体験になりました。ボランティアからは、草刈りが持続可能な暮らしの一場面である、自然環境は人と生き物の営みが複雑に絡み単純な自然保護では解決できないと感じたなどの感想をいただきました。

かつてのように草を使わなくなった現在では、草地管理は地域にとって大きな負担です。ボランティアの力は僅かですが、これをきっかけに野の花の咲く風景と木曽馬文化の価値が再評価され、地域の活性化や関係人口の増加につなげたいと考えています。この活動が地域の伝統文化と生物多様性との生きたつながり「生物文化多様性」を再生するためのモデルケースとなることを目指しています。

(畑中 健一郎・須賀 丈／自然環境部)



急斜面で草に埋もれながら一列に並んで花の調査



重労働の成果(?)をバックに記念写真